

保育士および幼稚園・小学校教員養成課程における 音楽実技能力育成の現状と課題

上野亜希子⁽¹⁾・神古麻弥⁽¹⁾・佐分利小夜子⁽¹⁾・高橋元子⁽¹⁾・永井益子⁽¹⁾・古山典子⁽²⁾

本研究の目的は、保育者養成課程および小学校教員養成課程で育成すべき音楽実技能力とは何かを明らかにすることである。研究の方法としては、保育所、幼稚園における歌唱活動で現在どのような歌が歌われ、どのように伴奏が行われているのかを明らかにするためにアンケート調査を実施し、他の四年制国立大学の音楽実技科目のカリキュラムおよび自治体が求める保育士・幼稚園教諭の音楽能力を反映していると思われる採用試験の音楽実技課題について調査を行った。併せて、小学校教員養成課程で育むべき音楽実技能力について考察するために、公立小学校の教員へのアンケート調査、養成課程のカリキュラム、採用試験における音楽実技試験の内容の調査を行った。この研究は、保育者養成課程および小学校教員養成課程における音楽実技科目の改善に対し、有効な知見の提供に資するものである。

キーワード：保育者養成課程、小学校教員養成課程、音楽実技能力、カリキュラム、アンケート調査

序

近年、保育士養成、教員養成にかかわる改革が行われ、養成課程にも当然その対応が求められている。たとえば、平成24年には、いわゆる子ども・子育て関連三法、つまり「子ども・子育て支援法」、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」、「子ども・子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」の公布により、「幼保連携型認定こども園」に配置される職員として、幼稚園教諭の普通免許状と保育士資格の両方を有する「保育教諭」が位置づけられた。これに伴い、保育士資格や幼稚園教諭免許の取得にかかわる改革が行われているところである。

本学は、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、そして特別支援学校教諭の養成課程を有しており、資格や免許に関わる音楽科目の具体的なあり方の検討は、指導とその成果を省察する形でこれまでも取り組んでき

た。しかし、保育者、教師として必要な音楽実技能力とは何か、という問いは、近年の保育・教育分野での改革によって、一層我々に突き付けられている課題といえる。実際には、保育者や教師が音・音楽を扱うために求められる能力は、根本的に大きく変わることはない。その育成の仕方について、養成課程は再考を迫られているのである。

この状況を踏まえ、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする学生たちへの実技指導において、音楽指導を行うにあたって必要な素養とは何か、その素養を育むための手段は現状で良いのか、その指導内容が時代のニーズと合っているかを常に問い、省み、授業内容を改善していかなければならない。

そこで、本研究では、保育者養成課程および接続する小学校教員養成課程における指導のあり方を検討することを旨とし、現状と課題について明らかにすることとした。

まず、保育・教育現場において取り上げられている歌と保育者の伴奏の実態について、アンケート調査を

⁽¹⁾福山市立大学教育学部非常勤講師

⁽²⁾福山市立大学教育学部児童教育学科 e-mail: n-koyama@fcu.ac.jp

基に明らかにした。そして、保育者・教師として求められる音楽実技能力の方向性を把握するために、各採用試験の内容を概観するとともに、本学と同じ4年制大学での保育者養成課程および小学校教員養成課程の実際について調査を行った。

Ⅰ アンケート調査からみる幼稚園および保育所で歌われている歌

1. アンケート調査の概要

現在の幼稚園、保育所でよく歌われている歌を明らかにするため、福山市立幼稚園全11園を対象に、郵送法によってアンケート調査を実施した。昨年度(2017年度)に園で歌唱指導した曲を年齢別に、生活の歌は1日の場面ごと、季節や行事の歌は月ごとに回答を求めた。併せて、歌唱の際の主な伴奏手段についても尋ね、10園から回答を得た(回収率90.9%)。(回答結果については巻末資料①、②を参照のこと。)

また、6月に保育所にて保育実習を行った本学の2年生53名に対し、アンケート用紙を配布し、実習中、一日の場面ごとに歌われていた歌を調査した。その際、使われていた伴奏手段についても尋ね、51名から回答を得た(回収率96.2%)。(巻末資料③を参照。)

幼稚園へのアンケート調査実施の際には、施設名ならびに回答者名は特定されないこと、また学生に対する調査においては、回答結果が成績には反映されないこと、個人情報の管理を徹底し、回答結果は個人が特定されない形で用いることを明記し、協力を得た。

なお、幼稚園には、年間を通して歌う曲を園に直接聞くことができたが、保育所で歌われている歌に関するアンケートでは、実習生に対して実習期間に歌われていた曲を尋ねているため、保育所の現状を明らかにしているとは言い難いが、その傾向について検討することとした。

2. アンケートの回答結果について

2-1. 保育所・幼稚園で歌われている歌

回答内容を分析した結果、保育所では、〈おはようのうた〉、〈お弁当のうた〉、〈おかえりのうた〉など、生活の場面ごとに決まった歌を歌う傾向がみられた。一方、幼稚園では、登園時と降園時に決まった歌を歌うことは少なく、季節や行事の歌を歌っている様

子がうかがえた。また、幼稚園では、昼食前に歌を歌う園はみられなかった。

幼稚園、保育所を通していえることは、春は〈ちゅうりっぷ〉や〈こいのぼり〉、夏は〈たなばたさま〉や〈かえるのうた〉といった季節や行事の歌を大切にしているということである。その中には、〈お正月〉、〈春が来た〉、〈かたつむり〉、〈どんぐりころころ〉、〈シャボン玉〉など、明治・大正時代から歌い継がれている古い歌も多い。〈うみ〉、〈たき火〉、〈たなばたさま〉などの昭和初期の歌も、定番の歌として園生活に取り入れられていた。これらの歌は比較的短く、テンポも速くなく、リズムも単純で子どもたちが集団で歌いやすい曲であると思われる。

また、1980年代以降の比較的新しい曲についても、〈さんぽ〉、〈世界中のこどもたちが〉、〈うさぎのはらのクリスマス〉のように、定番となった曲がみられた。加えて、2000年代に入ってからのごく最近の曲については、ほとんど歌われていないという現状が明らかになった。その理由としては、現場で歌われる歌が保育用の歌集から選ばれる機会が多く、流行してからこれらの歌集に載るまでの間かなりのタイムラグがあること、Jポップなどのリズムが複雑でメロディーが子どもたちにとって歌いにくいものは、集団で歌う歌として取り上げにくいこと、などが考えられる。今後、保育士や幼稚園教諭の「子どもたちに歌わせる歌を選択するときの基準」や、「よく使用する歌集」などの調査も必要となるであろう。

また、幼稚園、保育所では、日本の伝統行事に限らず、バス遠足では〈バスごっこ〉、運動会では〈運動会のうた〉、いもほりには、〈やさいもぐーちーぱー〉、年少組を迎える時には〈ちいさいくみさんこんにちは〉というように、生活の場面に沿った内容をもつ歌を選ぶ傾向があった。ここから、子どもたちが歌のリズムやメロディー、歌詞を通して活動内容をより深く共感し理解できるように、保育士、幼稚園教諭が選曲して歌わせているという様子がうかがえる。

加えて、夏に〈おりづる〉という曲を取り上げる園が複数あることや〈母と子の八月八日〉という曲を取り上げる園がみられたが、これは本学所在地の歴史を反映した平和学習の一環であると思われる。

今回のアンケートでは、伴奏を伴う歌に着目し、手遊び歌は除いて回答を求めたため、手遊び歌を含める

と、実際の保育現場では、さらに多くの歌が歌われていると考えられる。

保育所や幼稚園の一日を想像してみると、施設によって違いはあるものの、登園時には<おはよう>、<おはようのうた>や<朝のうた>だけでなく、季節の歌を歌い、昼食の前には<おべんとう>、友達の誕生日には<たんじょうびのうた>、降園時には<おかえりのうた>、そしてその他の活動時にはそれぞれの行事の歌を練習しているという状況が思い浮かぶ。また、これらの施設では、空き時間、待ち時間を使って、数多くの手遊びも無伴奏で行われる。このように、歌唱活動は幼稚園、保育所にとって、園生活そのものであり、日々の活動と切っても切り離せない関係にあるといえる。

2-2. 歌唱活動における伴奏手段について

次に、その歌唱活動を行う際の伴奏手段について考察したい。

保育実習後のアンケートでは、曲名ごとに伴奏手段を尋ねたが、延べ160曲の中で回答のあったもののうち、伴奏手段の割合は、ピアノ・キーボードが61.2%、無伴奏26.3%、CD12.5%であった。保育所では、とくに昼食前には無伴奏で歌うことが多いが、その他の場面では、大半がピアノ・キーボードでの伴奏で歌われている。

幼稚園へのアンケートでは、「無伴奏」を選択肢に挙げていなかったため、保育所との比較はできないが、歌唱の際の主な伴奏手段として選択されたものは、ピアノ・キーボードが73.1%、CD26.9%、ギターは0%であった（図1を参照）。なお、幼稚園へのアンケ

ートで示した選択肢は、「ピアノ」、「CD」、「ギター」、「その他（自由記述）」であった。

いずれのアンケートでも、ピアノ・キーボードを使った伴奏が6割以上を占めている。この理由としては、メロディーと伴奏を同時に演奏できること、子どもの声量や歌うテンポに合わせてられること、部分練習をしやすいことなどが考えられる。

以上の回答結果から、保育の現場で歌われている歌は、明治時代のものから、現代まで幅広く多くの歌が歌われていること、古くから歌い継がれる日本の伝統行事の歌、季節の歌を大切にしていること、現代の歌であっても子どもたちが好きな曲、集団で歌いやすい曲を選んで歌わせていること、その伴奏にはピアノ、キーボードといった鍵盤楽器が多く使われているという現状が明らかになった。

II 保育者養成課程の現状と採用試験の課題曲について

1. 本学および他大学の現状

1-1. 保育者養成課程の入学試験課題と授業内容

「I」で示したアンケート結果からわかるように、保育の現場ではピアノ・キーボードを使った伴奏が6割以上を占めており、保育者養成課程におけるピアノ演奏技能の習得は、必要不可欠といえる。

したがって現在、保育者養成課程において、ピアノ演奏技能に関する指導がどのように行われているのかについて、本学が「4年制の公立大学」であることから、4年制の国公立大学に限定して調査を行った。その結果、4年制の国公立大学で、保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を取得できる32校中、28校のシラバ

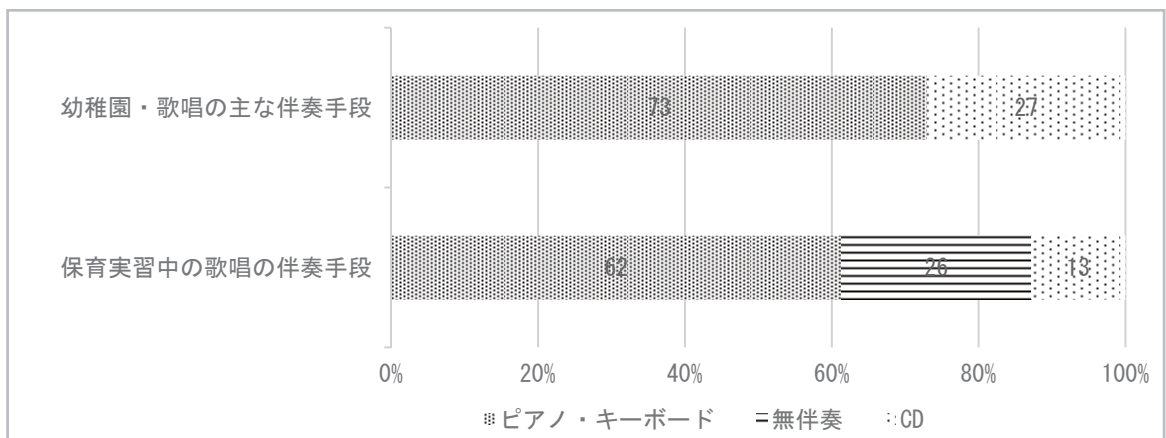


図1 歌唱活動の際の伴奏手段

スを調査することができた(2018年9月現在)。なお、以下の調査結果は、公開されているシラバスの範囲内でのものであるため、現状と異なる場合があることは予想される。

まず、入学試験におけるピアノ実技の有無についてであるが、本学ではピアノ実技試験は実施していないが、志願者全員にピアノ実技試験を課している大学は1校存在した。このほかに、ピアノ実技ではなく、「リズム打ち・旋律視唱」や「歌唱」を課している大学が、それぞれ1校ずつみられた。

ここから、多くの大学で、入学試験においてピアノ実技試験を実施していないことが明らかとなった。それゆえに、入学時の学生にはピアノ未経験者や初心者が多いことがうかがえる。

次に、4年間のカリキュラムにおいて、ピアノ実技指導がどのくらい扱われているかを調査した。

本研究では、レッスン形式の授業だけではなく、講義形式であっても、学生が実際にピアノに接するとと思われる授業については、実技指導を行っているものとみなした。必修科目であるか選択科目であるかは関係なく、実技指導を含んでいる授業を選び、各大学それぞれ4年間分の授業時間数をカウントした。

1時間を60分として計算し、本学を含め30時間以下の大学が13校、31時間から60時間までが9校、61時間から90時間までが5校、それ以上の大学が1校、という結果になった。30時間以下の大学が28校中13校と最も多く、半数近くを占めていた。

また、授業の形式も様々であったが、概ね次のように分類できた。

- ① 全員一緒に講義形式で行うもの(10校)
- ② 少人数のグループに分けて行うもの(6校)
- ③ 個人レッスン(3校)
- ④ ①と③の併用(3校)
- ⑤ ②と③の併用(2校)
- ⑥ その他(4校)

ここから、限られた授業時間数の中で、各大学が様々な授業形式を試み、工夫している様子がうかがえる。なお、本学は約50名の学生を6、7名のグループに分けてレッスンを行っているため、②に該当する。

①に該当するシラバスとして、ある国立大学(A大学、とする)の例を表1に示す。

表1 A大学の授業計画

| | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 楽典とソルフェージュ 五線と鍵盤 |
| 第3回 | 楽典とソルフェージュ リズムと拍子(基礎) |
| 第4回 | 楽典とソルフェージュ リズムと拍子(応用) |
| 第5回 | 楽典とソルフェージュ 音階と調(基礎) |
| 第6回 | 楽典とソルフェージュ 音階と調(応用) |
| 第7回 | 楽典とソルフェージュ 和音と伴奏(基礎) |
| 第8回 | 楽典とソルフェージュ 和音と伴奏(応用) |
| 第9回 | 子どもの歌の歌唱(基礎) |
| 第10回 | 子どもの歌の歌唱(応用) |
| 第11回 | 子どもの歌の伴奏(基礎) |
| 第12回 | 子どもの歌の伴奏(応用) |
| 第13回 | 子どもの歌の伴奏アレンジ(基礎) |
| 第14回 | 子どもの歌の伴奏アレンジ(応用) |
| 第15回 | まとめ |
| | 定期試験 |

授業の内容も授業の形式と同じく様々であったが、次の4つの形態に分類できた。

- 1 弾き歌いを主に行うもの(11校)
- 2 教則本等を使用してピアノ実技に特化しているもの(1校)
- 3 弾き歌いとピアノ実技を同程度に行うもの(14校)
- 4 楽典および音楽実技全般を扱う中に弾き歌い・ピアノ実技を組み込んでいるもの(2校)

なお、弾き歌いの授業においては、コードネーム伴奏を丁寧に指導している大学が多くみられた。表2に、ある国立大学(B大学、とする)の授業計画を一例として挙げる。

表2 B大学の授業計画

| | |
|------|---------------------|
| 第1回 | コードの構成音についての理解 |
| 第2回 | 2つのコードでの伴奏 |
| 第3回 | 3つのコードでの伴奏 |
| 第4回 | 曲想にふさわしいベースとリズム形 |
| 第5回 | 構成音から転回して伴奏形を作る 1 |
| 第6回 | 構成音から転回して伴奏形を作る 2 |
| 第7回 | 特殊なコードの理解・コード伴奏での移調 |
| 第8回 | コード提示によって伴奏を作る |
| 第9回 | 課題の遂行 |
| 第10回 | 課題の遂行 |
| 第11回 | 特殊なコードの構成音を理解する |
| 第12回 | ベースの効果的な使い方 |
| 第13回 | 前奏をつける |
| 第14回 | 前奏の作り方・弾き方 |
| 第15回 | まとめ |
| 第16回 | 試験 |

コードの学習に重点を置くということは、その曲のもつ調性感を育成するという意味があるが、その一方には、初学者は市販されている伴奏譜では、演奏が困難であるという背景があることがうかがえる。このB大学では、主要三和音によるコードを中心とし、それに追加して特殊な和音の学習を行い、自分で伴奏を編曲できる能力の育成を目指していることがわかる。

1-2. テキストについて

弾き歌いで使用されているテキストは各大学で異なるが、『こどものうた200』（チャイルド本社）は28校中6校、『続こどものうた200』（同）は3校で採用されていた。このほかに、『こどものうた140選』（ドレミ楽譜出版社）、『日本童謡選集』（同）、『簡易伴奏による こどもの歌ベストテン』（同）、『母とおきなごの歌』（全音楽譜出版社）、『心を育む子どもの歌』（教育芸術社）、『ポケットいっぱい うた 簡単に弾ける144選』（同）、『やさしく弾ける ピアノソロ文部省唱歌・童謡集』（ケイエムピー）、『こどものうた100』（チャイルド本社）も採用されていた。

また、ピアノ実技レッスンでは、『バイエルピアノ

教則本』が7校、『ブルグミュラー25の練習曲』が4校で教則本として指定されていたが、学生各自のレベルに合わせて担当教員が与えるという大学も多かった。

1-3. 本学のピアノ指導に関する授業概要

本学では、1年生の第1・2学期で楽典と声楽の授業を行い、第3・4学期でピアノと弾き歌いの授業に取り組んでいる。授業計画は表3の通りである。

表3 本学の授業計画

| | |
|------|------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 春の歌① |
| 第3回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 春の歌② |
| 第4回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 夏の歌① |
| 第5回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 夏の歌② |
| 第6回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 秋の歌① |
| 第7回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 秋の歌② |
| 第8回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 冬の歌① |
| 第9回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 冬の歌② |
| 第10回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 生活の歌① |
| 第11回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 生活の歌② |
| 第12回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 行事の歌 |
| 第13回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い 歩く・走る曲 |
| 第14回 | ピアノ曲及び童謡の弾き歌い スキップ・跳ぶ曲 |
| 第15回 | 期末発表会 |

なお、ピアノ曲では、『バイエルピアノ教則本』または『ブルグミュラー25の練習曲』を主に使用し、弾き歌いでは、2017年度から『こどものうた200』（チャイルド本社）をテキストとして採用している。

1-4. 保育者養成課程の現状についての考察

前述したように、4年間の授業時間数が30時間以下の大学が約半数を占めている。ピアノ未経験者や初心者が多い中で、現場で求められる音楽実技能力を習得するためには、この授業時間数では充分であるとは言いがたい。

少ない授業時間数の中で、弾き歌いの授業に重点を置いている大学が多いのは、現場で弾き歌いの能力が求められているからだけではなく、採用試験において

は主に1910年代から1960年代に発表された幅広い年代の曲が採用されているのに対して、岡山市、倉敷市は<ドキドキドン一年生> (1986年), <世界中のこどもたちが> (1987年), <勇気100%> (1993年) 等, 比較的新しい曲を取り入れているといえる。

試験年度による課題曲の違いには、大きな傾向の差はなく、この5年間では、採用された曲の発表年代や曲の長さ、曲のテンポやリズムなどに大きな変化はみられなかった。

次に、どの年代の曲が多く採用されているのかを調査するため、発表年の年代別に課題曲をまとめた(表5参照)。

表5での年代区分は、①戦前、②1945年～1959年、③1960年～1979年、④1980年～とした。分類したところ、①の区分が21曲、②の区分は10曲、③の区分では22曲、④の区分においては3曲であった。このことから、①と③の区分の課題曲が多いが、とくに1960年代に発表された童謡が現在でも多く取り上げられていることが読み取れる。

詳しくみていくと、①については、1911年に発表された曲が最も多く、<ゆき>、<かたつむり>、<もみじ>、<きくの花>、<ももたろう>が取り上げられていた。これらの曲は、1911年から1914年にかけて文部省が編纂した『尋常小学唱歌』に収録されている。

②については、それまで曲の主な発表の場が紙媒体であったのに対し、NHKラジオにその場が移行した時代である。③については、1962年に発表された曲が多く、<大きな古時計>、<気のいいあひる>、<おなかのへるうた>、<手のひらを太陽に>、<線路は続くよどこまでも>、<アルプス一万尺>、<とんできたバナナ>、<おもちゃのチャチャチャ>、<おはながわらった>、<アイアイ>という10曲が指定されていた。これは、1961年にNHKラジオ・テレビで放送が開始された「みんなのうた」の影響であろう。③の22曲中12曲が「みんなのうた」で発表された曲である。④については3曲と少なく、1993年発表の<勇気100%>以後に新しく発表された曲は、課題曲になっていない。

現場のアンケート結果からも明らかのように、日常、保育所・幼稚園で歌われている歌が、採用試験に多く取り上げられている様子がうかがえる。

3. 採用試験からみる保育士・幼稚園教諭に

求められるピアノ実技能力

4市全てにおいて、採用試験では弾き歌いが課せられている。課題曲の楽譜指定はなく、難易度も問われていない。

たとえば、広島市の採用試験では、弾き歌いのほかに、簡単な楽譜の初見視奏や移調の課題が出されている。また、倉敷市ではピアノ実技試験中に試験官が歌ったり楽器を鳴らしたりすることもあったという。このように、いずれの自治体においても独自の試験を行っているようだが、弾き歌いは「子どもの前で聴かせるように」「子どもと一緒に歌うように」という指示が出されている自治体もみられた。

このことから、採用試験ではピアノの演奏の技術よりも、いかに子ども達の前で表情豊かに弾き歌いが出来るかに重点が置かれているように見受けられる。

表情豊かに弾き歌いを行うためには、基本的なピアノの実技能力を要する。この実技能力を養成するために必要なピアノ実技の授業時間数については、音楽実技習得の特性から、十分な時間が確保されているとは言いがたい。保育者に音楽実技能力が求められていることは、本研究からも明らかである。したがって、その養成課程において、保育者に必要とされる音楽実技能力を習得するための授業時間の確保と実技能力育成のための指導法の検討が求められる。

それでは、小学校教員養成課程で求められる音楽実技能力とはどのようなものなのであろうか。

IV アンケート調査からみる

小学校教員の音楽実技能力の実態

1. アンケート調査の概要

ここでは、小学校教員養成課程においてピアノ伴奏技能を指導するにあたり、教育現場で求められる音楽能力、およびどのような方法や教材を用いれば、より効果的に修得できるのかを考察する。

そのために、現在公立小学校で実際に音楽指導に当たっている教員(4校、57名)にアンケート調査を実施した。(回収率100%)

アンケートの内容は、教員自身が教員養成課程在籍中に履修したピアノ実技に関する科目や小学校教員として必要とされる音楽実技技能について尋ねた。教員養成課程在籍時のピアノ実技習得の様子は、履修年数

や用いられた教材、採用された時点でのピアノ演奏のレベルを、『バイエル教則本』を基準にして尋ねた。また、現時点で音楽授業を行うにあたってピアノ技能の必要性については自由記述で回答を求めた。その上で、小学校教員採用試験の各自治体での実技試験の有無や内容を調べ、小学校教師として求められるピアノ実技能力を明らかにしたいと考えた。

2. アンケートの回答結果について

2-1. 教員の養成課程でのピアノ実技に関する実態

教員に、どのような養成課程で学んだのかを尋ねたところ、表6の結果となった。

表6 教師の出身養成校種

| | |
|----------------|------------|
| 小学校教員養成課程4年制 | 48名(84.2%) |
| 小学校教員養成課程2年制 | 2名(3.5%) |
| 特別教科(音楽)教員養成課程 | 2名(3.5%) |
| 音楽大学の教員養成課程 | 0名(0%) |
| 通信制教員養成課程 | 2名(3.5%) |
| その他 | 3名(5.3%) |

次に、教員として採用された時点でのピアノ実技の技能がどの程度であったのかを尋ねた。

表7 採用された時点でのピアノ技能

| | |
|----------|------------|
| バイエル前半程度 | 20名(35.1%) |
| バイエル後半程度 | 11名(19.3%) |
| バイエル終了程度 | 24名(42.1%) |
| 未記入 | 2名(3.5%) |

表7にあるように、採用された時点でバイエル後半、終了程度のピアノ演奏能力をもつ教員は61.4%であった。その一方で、35.1%の教員が「バイエル前半程度」と答えた。「バイエル前半程度」は一般的にピアノ伴奏が十分にできる程度とは言えず、ピアノ実技能力が不十分な学生を対象にした授業の充実が望まれるところである。

次に、教員自身が教員養成課程に在籍していた時の、養成校でのピアノ実技に関する科目の開講期間について

(表8)、また、どのような教材で授業が行われたかを尋ねた(表9)。

表8 出身養成課程在籍中の
ピアノ実技に関する科目の開講期間

| | |
|-----|------------|
| 4年間 | 2名(3.5%) |
| 3年間 | 8名(14.0%) |
| 2年半 | 1名(1.8%) |
| 2年間 | 11名(19.3%) |
| 1年半 | 3名(5.3%) |
| 1年間 | 14名(24.6%) |
| 半年 | 10名(17.5%) |
| なし | 5名(8.8%) |
| 無回答 | 3名(5.3%) |

表9 授業で使用された教材(のべ数)

| | |
|-------------------------------|-----|
| バイエル | 22名 |
| 共通教材 | 10名 |
| ブルグミュラー | 8名 |
| ソナタ | 3名 |
| ソナチネ | 3名 |
| ツェルニー | 2名 |
| ショパン | 2名 |
| ※その他、モーツァルト、トンプソン、ハノンや自分が選んだ曲 | |

教員養成課程在籍中のピアノ実技の授業について、42.1%の教員が半年間あるいは1年間という短い期間の履修であったが、それに対して2年以上実技指導を受けた教員が38.6%いた。このように表8からは、全体では9割程度の教員が何らかのピアノ実技指導を受けていることがわかる。

また、使用された教材としては、バイエルや共通教材が用いられている場合が多いことが明らかになった(表9を参照)。これは、どちらも教員採用試験で取り上げられていることに関わっていると考えられる。

例えば、ある国立大学(C大学、とする)では、小学校教員として必要な音楽に関する知識・技術を習得することを目標として、2年次後期にピアノ実技の授業が位置付けられている。C大学では、学生のピアノ実技能力によっていくつかのクラスが開設されている

が、そのうちの指導計画の一例を挙げる。

| | |
|------|---|
| 第1回 | 全体オリエンテーション |
| 第2回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (バイエル10番台を中心として) |
| 第3回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (共通教材の歌唱を中心として) |
| 第4回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (バイエル50番台前半を中心として) |
| 第5回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (小学1～3年生の共通教材の歌唱と伴奏を中心として) |
| 第6回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (バイエル50番台後半を中心として) |
| 第7回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (小学1～3年生の共通教材の弾き歌いを中心として) |
| 第8回 | 中間実技発表 (バイエル1曲, 弾き歌い1曲) |
| 第9回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (バイエル60番台前半を中心として) |
| 第10回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (小学4～6年生の共通教材の歌唱と伴奏を中心として) |
| 第11回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (バイエル60番台後半を中心として) |
| 第12回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (小学4～6年生の共通教材の弾き歌いを中心として) |
| 第13回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (バイエル70番台を中心として) |
| 第14回 | 1人ひとりの到達目標に応じた実技演習の指導 (小学4～6年生の共通教材の弾き歌い, 小学1～6年生の共通教材の歌唱を中心として) |
| 第15回 | 学期末実技試験 (バイエル2曲) |
| 第16回 | 学期末実技試験 (弾き歌い1曲, 歌唱1曲) |

また、私立のある大学では、入学試験でピアノ実技は行われていないが、合格後に「入学前ピアノセミナー」を開いている例や、ピアノ実技能力の育成が4年間を通して行われている例もある。

2-2. ピアノ伴奏の実態と必要性

次に実際に音楽授業を行う中で教師として感じる、ピアノ伴奏で歌わせることの必要性和その理由を聞いた。自由記述回答の内容を分類し、回答の多かった順に表した(表10を参照)。

表10 教員が考える

「ピアノ伴奏で歌わせることの必要性」

| | |
|------------------|---|
| 練習の過程での必要性 | 曲の途中からも取り出して練習できるので指示しやすい。 子どもに合わせたリズム, テンポで, 強弱で指導できるから。 音程を正確に指導できる。 フレーズ毎練習などに必要。 CDでは練習したいところが出てこなかったり, 表現が多様になりにくい。 具体的に音やリズム, 旋律を示しながら指導できる。 移調して歌いやすくもできる。 |
| 児童の意欲に関する必要性 | 一体感が生まれて歌う気持ちになる。 子どものノリが違う。 子どもの様子が生き生きしてくる。 音楽に対する意欲付けになる。 |
| 感性を育てるための必要性 | 本物の音を聴くことは感性を磨くことにもつながる。 実際に音を感じながら歌うことができる。 曲のイメージがもちやすい。 児童にとってピアノの生の音を聴く機会が少ないから。 子どもの歌声の質が変わってくる。 |
| 音楽的な表現を作る過程での必要性 | 速さ, 強弱など歌や楽器, 子どもの実態に合わせてくれる。 強弱や息継ぎの指導がしやすい。 必要に応じて旋律を際立てて伴奏できたり, 臨機応変にできたりする。 |

ピアノ伴奏が「必要」と答えた教員は96.5%で、感性や意欲を育てると共に、より正しい旋律線や音程をとること、よりよい表現を求めるために必要であると答えている。また、3.5%の教員がピアノ伴奏は「必要ない」と答えたが、その理由は以下の通りであった。

| |
|--|
| 「ピアノ伴奏が必要ない理由」(自由記述回答) |
| ・伴奏を弾いていると子どもの歌声を聴いたり、様子を見たりすることが難しい。しかし、ピアノが得意ならある方が子どもに合わせての速さや曲想が変えられるからいい。 |
| ・音を取るのには単音弾きをすればいいと思うが、音が取れたらCDで机間指導した方がよいと思う。 |

ピアノ伴奏で歌わせることの必要性があると考えている実態はあるが、実際にピアノでの伴奏を行っているかを尋ねたところ、以下のような結果となった(表11, 12, 13を参照)。

表11 音楽授業でピアノ伴奏を行っているか

| | |
|----------------|-------------|
| ほぼピアノ伴奏を行っている | 4名 (7.0%) |
| 伴奏可能な曲は極力行っている | 19名 (33.3%) |
| ほぼピアノ伴奏は行っていない | 34名 (59.6%) |

表12 音楽発表会などでのピアノ伴奏経験の有無

| | |
|----|-------------|
| ある | 29名 (50.9%) |
| ない | 28名 (49.1%) |

表13 表12で「ある」と答えた教員の
個人レッスンの経験の有無 (29名中)

| | |
|---------------|-------------|
| 個人レッスンを受けた | 6名 (20.7%) |
| 個人レッスンを受けなかった | 23名 (79.3%) |

前掲の表8で明らかになったように、教員養成課程でのピアノ実技に関する履修期間の差はあるものの86.0%の教員が経験している。しかし実際には、ピアノでの伴奏の必要性を感じながらも、授業でほぼそれを行っていない教員が59.6%にのぼるという結果となった。また、授業で毎回ピアノ伴奏を行っている教員は7.0%と非常に少ない。ここから、小学校教員は伴奏音源を利用している現状があることがうかがえる。

小学校教員の場合、全教科を指導することから伴奏を練習する時間がとりにくいことや、弾けたとしても、ピアノ伴奏自体で教師が目指す音楽的な表現を表すまでには至っておらず、音楽表現を支えるようなピアノ伴奏になりにくいことを危惧して、音源を利用する場合もあると考えられる。

また、発表会等ではピアノ伴奏を約半数が経験をしているものの、弾いたことがない教員は機会を逸することでピアノ技術能力の向上ができない状態を継続することが危惧される。

2-3. 音楽科を指導するためにつけておきたい能力

音楽科を指導するためにはピアノ伴奏の能力の他、いろいろな指導技術が必要となる。実際に教員が音楽授業をし、必要と考える指導技術を尋ねた。より詳しく知るために自由記述で回答を求めた。回答内容を分類して表した(表14を参照)。

表14 教員養成課程でつけておきたい技能

| | |
|---------------------------|---|
| 表現技能 (ピアノ演奏、伴奏能力、楽器演奏) | <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ実技の能力 ・旋律に対して和音を付けて弾く能力 ・簡単な伴奏でひけるように ・模擬授業的に子どもが歌えるように伴奏する力 ・初見で弾くことができる能力 ・右手だけでも弾いて主旋律がとれるように。 ・楽しく音楽の授業が始められるようにアップテンポの曲が弾けるようになる ・伴奏しながら子どもの様子を見ることができるようになる ・リコーダー、鍵盤ハーモニカの実技能力 |
| 歌唱指導の具体的な方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・発声法、発声指導 ・歌唱指導の能力(どのように歌わせるか) ・音が外れがちな児童をどのように指導するか ・歌唱指導の授業(曲を使って指導のポイント) |
| 音楽理論・基礎基本 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づく音楽的な知識と指導のコツ ・音楽記号、音楽用語を含む楽譜の読み方 ・中学校程度までに学ぶ楽典 ・共通事項の理解 |
| 楽器指導の具体的な方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の使い方 ・リコーダー指導や合奏の指導法を知る ・拍の取り方やリズムうちの仕方(裏拍を苦手とする児童に対しての指導法) |
| 授業づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・どのような観点で曲を鑑賞したり、表現させたりするべきか具体的に座学のみならず学生が演奏しながら行い能力として培わせる ・ピアノが弾けることと指導できることとは違う。自分が音楽が好きであること。ある一曲についてどうとらえ、どのように表現したいかを、考えさせる力 ・教科書を用いながら授業づくりの研修 ・音楽経験がほとんどなくても音楽授業ができるような実践的な指導の仕方を学ぶ |
| 音楽学習への意欲 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が意図をもって演奏するためにはどうすればよいか考える ・歌いたい、演奏したい、作りたい、それが楽しいと思う心があれば必要な能力を身につけたくなる |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・指揮法 ・鑑賞の授業 ・音楽づくり ・発表会の曲の選曲の仕方 |

表14から、小学校教員は教員養成課程で習得すべき音楽指導能力について、音楽の基礎知識（音楽理論）、歌唱能力、歌唱指導能力、ピアノ伴奏能力、楽器指導能力を挙げていることがわかる。

小学校で指導する教科には、それぞれのもつ特性がある。教員になってから指導技術を高めていくことのできる教科もあるが、音楽科の場合は、音楽技能の基礎を基に指導技術が積み上げられる特性があると考えられる。

音楽のよさや楽しさを感じ、思いを持って表現する力、感性を働かせて他者と協働する力を育むなどの音楽科の目標を達成するために、ピアノをはじめとした教師自身の音楽表現による授業は、大きな役割をもつ。そのためには、教員養成課程での実技指導が学生個人の自主的な取り組みに発展していくことが期待される。

V 小学校教員採用試験で求められる音楽実技能力

1. 各自治体での音楽実技試験の内容

2019年採用の採用試験の音楽実技課題について、都道府県単位で調べた。なお、2018年実施の試験内容が明らかではない場合は、2017年実施時の試験内容を引用した（表15参照）。

表15 実技試験を行う自治体の試験内容

※は2017年実施の内容。

| 自治体 | 実技試験内容 |
|-----|---|
| 北海道 | 歌唱共通教材の弾き歌い。 |
| 青森県 | 8曲から1曲選び、オルガンで主旋律に伴奏を付け、歌いながら演奏する。（前奏も付ける。） |
| 岩手県 | 3、4学年の共通教材から1曲をピアノ伴奏。 |
| 宮城県 | 3年生以上の歌唱教材から任意の1曲を選び、伴奏を弾く。 |
| 秋田県 | 共通教材より各自が選択した1曲についてピアノ伴奏（簡易伴奏も可）しながら独唱（歌詞の1番まで）を実施。その曲の楽譜を携行する。 |
| 山形県 | 5、6学年の共通教材から1曲選び伴奏する。また、1曲を選び、歌唱する。 |
| 福島県 | 「われは海の子」の弾き歌い。 |
| 茨城県 | 歌唱共通教材の弾き歌い。 |
| 栃木県 | 弾き歌い：「うみ」、「春の小川」、「このぼり」の中から選択。 |
| 群馬県 | 実施されているが、詳細不明。 |
| 新潟県 | 4、5、6学年の共通教材から指定する1曲をCD伴奏で歌う。 ピアノ伴奏（楽譜を用意して）。 |

| | |
|------|---|
| 富山県 | 体育と音楽実技のどちらかを選択する。 音楽の場合：「うさぎ」、「冬げしき」、「夕やけこやけ」から指定の1曲。 |
| 福井県 | 4曲を選んで伴奏演奏。『新 音楽の授業づくり』（教育芸術社）から本格伴奏または簡易伴奏を選ぶ。 |
| 長野県 | 歌唱、ピアノ伴奏、ソプラノリコーダー演奏。 |
| 岐阜県 | 「夕やけこやけ」の弾き歌い。 |
| 三重県 | 「夕やけこやけ」の弾き歌い（楽譜指定あり）。 |
| 滋賀県 | バイエル52、80、102番から1曲。 「とんび」、「スキーのうた」、「おぼろ月夜」から1曲を範唱になるように歌う。 リコーダー「パフ」、「さんぼ」、「茶色の小びん」から1曲を範奏として演奏する。 |
| 京都府 | 弾き歌い、バイエルの暗譜演奏。 |
| 兵庫県 | 「ふるさと」をアカペラで歌う。 「冬げしき」をキーボード、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダーのいずれかを選択して演奏する。 |
| 奈良県 | ピアノ、リコーダー、鍵盤よりいずれか。 歌唱のみで「茶つみ」、「さくらさくら」、「もみじ」から選択。 |
| 和歌山県 | 指定された曲のオルガン演奏。 |
| 鳥取県 | 弾き歌い。 |
| 岡山県 | 共通教材「夕やけこやけ」、「ふじ山」、「さくらさくら」、「とんび」、「ふるさと」のうち、当日指定する曲をピアノで弾き歌いする。（各自で楽譜を持参してもよい。移調も可。） |
| 広島県 | オルガン演奏：バイエル51～103から1曲 ソプラノリコーダー演奏：当日指示する曲から1曲。 歌唱：アカペラ。当日指示する曲から1曲 |
| 山口県 | (1) 共通教材の3曲（「春の小川」、「もみじ」、「ふるさと」）の中から自ら1曲を選択し、簡単なピアノ伴奏を付けて歌唱する。 (2) 次のいずれかによる任意の楽曲の演奏（独奏曲に限る）。電子ピアノ、声楽、その他の楽器（電子楽器は除く）。 |
| 高知県 | 弾き歌い。 |
| 徳島県 | 実施されているが、詳細不明。 |
| 福岡県 | 4年から6年の歌唱共通教材の中から指定する3曲のうち1曲を選択して弾き歌い。 |
| 佐賀県 | ※ 「ふるさと」、「ふじ山」、「春の小川」から指定された1曲を弾き歌い。 |
| 長崎県 | 歌唱：4、5、6学年から選択。 オルガン伴奏：「ふじ山」、「もみじ」、「われは海の子」から当日指定。 |
| 熊本県 | 「春の小川」、「とんび」、「おぼろ月夜」の中から当日指定する1曲の伴奏をする。 |
| 大分県 | 3学年から6学年の歌唱共通教材の中から1曲を選択し、弾き歌い。 |
| 宮崎県 | 共通教材（「ふじ山」、「とんび」、「おぼろ月夜」）のうち当日指定する1曲を弾き歌い。 |

| | |
|------|--|
| 沖縄県 | 弾き歌い：「とんび」、 「もみじ」のいずれ かを選択。 ソプラノリコーダー演奏：「冬げしき」。 |
| 詳細不明 | 石川県，山梨県。 |

実技試験が行われているのは34カ所（78.7%）であり、11の自治体（全自治体の23.4%）では音楽実技試験が行われていなかった。そのほか、行われているものの詳細が不明の自治体が2カ所、行われているかどうか不明の自治体が2カ所あった。

また、弾き歌いが実施される自治体は18カ所で、音楽実技試験が行われている自治体の52.9%であった。その課題曲には、共通教材が多く取り上げられている。

一方、鍵盤楽器の演奏として「弾き歌い」ではなく、「ピアノ演奏」の課題を課しているのは滋賀県、京都府および広島県で、いずれもバイエルの課題が出題されていた。また、多くの自治体で音楽実技試験は二次試験で行われているものの、一次試験で実技試験に取り組んでいる自治体は福島県、奈良県、鳥取県であった。このほかに、リコーダー演奏を課題としている自治体もあった（滋賀県、広島県、沖縄県）。富山県のように、音楽と体育の実技をどちらか選択するという方法で実施している自治体もみられた。

2. 採用試験からみる

小学校教員に求められるピアノ実技能力

音楽実技試験の方法は、各自治体によってさまざまではあるが、多くの自治体で弾き歌いが実施され、弾き歌いでない場合でも、共通教材の歌唱やピアノ演奏が出題されている。

ここから明らかなように、小学校教員として教員採用される時点で、教員が自ら歌いながら鍵盤楽器を演奏できる技能が求められているといえる。そしてまた、リコーダー演奏など、実際に児童に指導しなければならない基本的な楽器の演奏技能も問われている。

音楽指導では、教師自身が目指す音楽表現を音や声として児童たちに提示することが求められる。児童たちにとって、目指すべき表現を提示してくれる最も身近な存在が教師である。そして、教師自身も自らがその表現を行う際に必要とされる知識や技能の習得過程で何が困難であるのか、どうすれば習得できるかを、身をもって経験することが指導において有益であるこ

とは疑いようがない。したがって、小学校教員養成課程の段階において、学生自身が音楽表現を行う経験の蓄積が必要なのである。

結—今後の養成課程での音楽指導に向けて

現在、小学校では団塊の世代の教員が現場を去り、若手による学校運営が余儀なくされている。多くの教の教員がいた時代とは異なり、教員不足も指摘されている。そのような中、音楽専科教員がいない小学校では、担任教員が音楽授業を組み立て、指導することが求められる。しかし、本研究におけるアンケート結果からは、現場の担任教員の音楽科を指導するための技術力、指導力が十分とは言えない現状がうかがえた。

『小学校学校指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』では、(1)「知識及び技能」の習得、(2)「思考力、判断力、表現力等」の育成、(3)「学びに向かう力、人間性等」の涵養を音楽科の目標の柱としている。目標がいかに表されようと、音楽科は、知識・技能を用いながら、どのように音楽あるいは音楽表現をつくっていくのかを考え、身体を用いながら音や声でそれを表すことが主体となる教科であることに変わりはない。鳴り響く音を知覚し、価値判断し、さらなる表現へと思考と工夫を繰り返していく。とくに学校教育においては、その循環し変容していく行為が、さまざまな音楽的経験をもつ他者とともに行われることに大きな特徴がある。

音楽科では、他者との言葉や音による対話を通して美的感覚が生まれ、情操が養われる。これは、人間を教育する機関として当然求められる内容ではないだろうか。そしてさらに、知識や技能の習得が感性の錬磨とともに他者との協働によって行われる。そこで育まれる資質・能力は、各教科を学習する基盤となり、学校生活のさまざまな場面で必要となる資質、しいては積極的に生きる意欲を育てるものであり、そうであるがゆえに、音楽科は学校教育においてその存在意義をもつ。

一方、保育所や幼稚園に通うより幼い子どもたちの成長にとっても、音楽は必要不可欠なものであり、疑いようもなく保育者には音楽的な素養が求められる。

そうであるからこそ、保育者養成課程ならびに小学校教員養成課程において、学生が音楽活動や音楽科の重要性を学び、同時に、自分自身はどのように音楽を

表現したいのか、そして子どもたちにどのように表現させたいのかという考えをもつために、ピアノ実技、歌唱など表現活動を多く経験し、音楽に対する興味関心をもち、より多くの音楽実技能力を身に付けることが重要なのである。

文献

- 1) 秋山治子 (2012) 「今、都内の幼稚園・保育園(所)でどのような歌が歌われているか: アンケートの集計と考察」『白梅学園大学・短期大学教育・福祉研究センター研究年報』17, pp. 40-46。
- 2) 近江秀崇・岡本順子・水口美樹・水野みか・伊藤英子 (2017) 「保育者養成校における子どもの歌の弾き歌いの重要性—指導法に関する一考察—」『中京学院大学短期大学部研究紀要』48-1, pp. 67-76。
- 3) 岡崎善治・近江秀崇 (2017) 「保育施設で歌われている四季の歌に関する研究」『中京学院大学中京短期大学部研究紀要』47-1, pp. 45-52。
- 4) 小澤和恵 (2009) 「保育所・幼稚園実習で求められる音楽活動の考察—『生活の歌』と『季節の歌』について」『埼玉純真短期大学研究論文集』2, pp. 37-47。
- 5) 河原田潤 (2007) 「幼児保育現場で取り上げられる「子どもの歌」と考察—保育実習アンケートによる幼児音楽について—」『常葉学園短期大学紀要』38, pp. 103-112。
- 6) 河原田潤 (2008) 「幼児保育現場で取り上げられる『子どもの歌』と考察(2)—教育実習(幼稚園)アンケートによる幼児音楽について—」『常葉学園短期大学紀要』39, pp. 49-57。
- 7) 津布楽杏里 (2018) 「保育現場で歌い継がれる古い歌」日本学校音楽教育実践学会第23回全国大会 自由研究7発表資料。
- 8) 諸富満希子 (2011) 「『子どもの歌の変化』に関する一考察—戦後子どもの歌はどのように変化したか—」『日本女子体育大学紀要』41, pp. 49-56。
- 9) 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 音楽編』東洋館出版社, 203P。

(2018年10月23日受稿, 2018年11月26日受理)

巻末資料① 幼稚園で歌われている歌に関するアンケート (4歳児)

1. 生活の歌について、一日の場面ごとに歌った歌の曲目を記入してください。(数)

| | | | | | |
|---|----------------|-----|---------------|-------|--------------|
| 朝 | おはようのうた (5) | 昼 | 無回答 | その他の時 | 園歌 (3) |
| | おはよう あさがきた (1) | | | | 誕生会の歌 (1) |
| | | お帰り | にんげんっていいな (1) | | ハッピーフレンズ (1) |

2. 季節の歌、行事の歌について、月ごとに歌った歌の曲目を記入してください。(数)

| | | | |
|-----|--------------------|----------------------|--------------------|
| 4月 | ちゅうりっぷ (10) | ぶんぶんぶん (1) | ハッピーフレンズ (1) |
| | ちょうちょ (6) | あなたのおなまえは (1) | カスタネットのうた (1) |
| | せんせいとおともだち (2) | はるですよ (1) | さんぼ (1) |
| | おはようのうた (2) | はるですね はるですよ (1) | |
| 5月 | こいのぼり (10) | ちっちゃないちご (2) | ぶんぶんぶん (1) |
| | ありさんのおはなし (3) | いちご (1) | つばめになって (1) |
| | こたりのうた (3) | かえるのうた (1) | はらぺこあおむしのうた (1) |
| | おつかいありさん (3) | めだかの学校 (1) | |
| 6月 | かたつむり (10) | シャボン玉 (4) | はみがき (1) |
| | かえるのうた (6) | とけいのうた (2) | おいけのボルカ (1) |
| | あめふりくまのこ (4) | ながぐつマーチ (1) | |
| 7月 | たなばたさま (10) | シャボン玉 (2) | そうだったらいいのにな (1) |
| | アイスクリームの歌 (3) | 南の島のハメハメハ大王 (1) | うみ (1) |
| | おぼけなんてないさ (2) | みずあそび (1) | なつのうた (1) |
| | きらきら星 (2) | なつだよブルーだよ (1) | |
| 8月 | 南の島のハメハメハ大王 (2) | おぼけなんてないさ (1) | たなばたさま (1) |
| | うみ (2) | きらきら星 (1) | ぼくのミックスジュース (1) |
| 9月 | とんぼのめがね (10) | 100歳の歌 (2) | ななつのこ (1) |
| | つき (4) | 夕焼け小焼け (1) | どんぐり (1) |
| | 虫の声 (3) | 空にらくがきかきたいな (1) | すずむしのでんわ (1) |
| | こおろぎ (3) | 鳥のように (1) | 運動会 (1) |
| | 大きな栗の木の下で (3) | かたたき (1) | |
| 10月 | どんぐりころころ (10) | わいわい運動会 (1) | 山の音楽家 (1) |
| | やきいもぐーちーばー (4) | みんなのひろば (1) | こぎつね (1) |
| | きのこ (3) | バスごっこ (1) | たのしいね (1) |
| | さんぼ (1) | 夕焼け小焼け (1) | 虫の声 (1) |
| | まつぼっくり (1) | おなかのへるうた (1) | 運動会の歌 (1) |
| 11月 | まつぼっくり (6) | まっかな秋 (1) | ちょっとまって冬 (1) |
| | やきいもぐーちーばー (3) | ともだちパパパン (1) | どんな色がすき (1) |
| | じぐざぐおさんぼ (2) | きのこ (1) | きみのこえ (1) |
| | こどもがいっぱい笑ってる (2) | あしたは晴れる (1) | にじ (1) |
| | さんぼ (1) | おもちゃのチャチャチャ (1) | どんぐりころころ (1) |
| 12月 | あわてんぼうのサンタクロース (8) | どんな色がすき (2) | こねこのパン屋さん (1) |
| | うさぎ野原のクリスマス (5) | にんげんっていいな (1) | しろくまくん何しているの (1) |
| | お正月 (3) | おひさまになりたい (1) | こんな子いるかな (1) |
| | 赤鼻のトナカイ (3) | タンバリン (1) | あたま・かた・ひざ・つま先 (英語) |
| 1月 | ともだちいいね (2) | クリスマスのうたがきこえてくるよ (1) | |
| | ゆげのあさ (8) | ホ!ホ! (1) | たのしいね (1) |
| | お正月 (4) | やぎさんゆうびん (1) | ゆきのペンキ屋さん (1) |
| | たこ (2) | たこのうた (1) | たこあげ (1) |
| | ゆき (2) | 北風小僧のかんたろう (1) | もちつき (1) |
| 2月 | こんこんくしゃんのうた (2) | たきび (1) | おもちおもち (1) |
| | ゆき (5) | おひさまになりたい (1) | ゆきのペンキ屋さん (1) |
| | まめまき (5) | ゆげのあさ (1) | こんこんくしゃんのうた (1) |
| | ホ!ホ!ホ! (1) | うれしいひなまつり (1) | たんぼぼだんにはいるう (1) |
| | ゆきのこぼろず (1) | ありがとうの花 (1) | さあぼうけんだ (1) |
| 3月 | おにのパンツ (1) | 北風小僧のかんたろう (1) | 宇宙人に会えたら (1) |
| | 1年生おめでとう (6) | LET'S GO いいことあるさ (1) | おおきくなるってうれしいね (1) |
| | ちいさいくみさんこんにちは (3) | ありがとうさようなら (1) | つくしんぼのマイクrofオン (1) |
| | 春がきた (2) | 世界中のこどもたちが (1) | ぼくらはななま (1) |
| | 春がきたんだ (2) | さんぼ (1) | ともだちがいっぱい (1) |
| | きみたちきょうからともだちだ (2) | きみとぼくのラララ (1) | |
| | うれしいひなまつり (2) | 思い出のアルバム (1) | |

巻末資料② 幼稚園で歌われている歌に関するアンケート (5歳児)

1. 生活の歌について、一日の場面ごとに歌った歌の曲目を記入してください。(数)

| | | | | | |
|---|--------------|---|---------------|-------|--------------|
| 朝 | 朝はみんなに (2) | 昼 | 無回答 | その他の時 | 園歌 (3) |
| | ひとりじゃないさ (1) | | | | 誕生会の歌 (1) |
| | おほようのうた (1) | | お帰りの誕生日の歌 (1) | | ハッピーフレンズ (1) |

2. 季節の歌、行事の歌について、月ごとに歌った歌の曲目を記入してください。(数)

| | | | |
|-----|--------------------|--------------------|--------------------|
| 4月 | ちゅうりっぷ (5) | ふしぎなポケット (1) | 春が来た (1) |
| | きみたちきょうからともだちだ (2) | ともだちっていいな (1) | 春がきたんだ (1) |
| | ともだちがいっぱい (1) | あいうえおともだち (1) | はる (1) |
| | ひとりじゃないさ (1) | 野原へ行こう (1) | ちょうちょ (1) |
| | ちっちゃないちご (1) | ちいさいくみさんこんにちは (1) | ともだちできたら (1) |
| | おひさまになりたい (1) | せんせいとおともだち (1) | あくしゅでこんにちは (1) |
| | さんぼ (1) | 誕生日の歌 (1) | お花がわらった (1) |
| 5月 | 緑のマーチ (1) | ともだちできちゃった (1) | |
| | こいのぼり (8) | おひさまになりたい (1) | 明日も元気で (1) |
| | はたけのボルカ (3) | おかあさん (1) | カレーライス (1) |
| | さんぼ (2) | 緑のマーチ (1) | つばめになって (1) |
| | 緑の風と青い空 (1) | ハローマイフレンズ (1) | きみにヤッホー (1) |
| 6月 | 歌えパンパン (1) | つばめ (1) | |
| | にじ (8) | たなばたさま (2) | おたまじゃくし (1) |
| | だから雨ふり (4) | かたつむり (2) | にじのむこうに (1) |
| | シャボン玉 (3) | かえるのうた (1) | すうじのうた (1) |
| | 大きな古時計 (2) | 山からボカボカ (1) | 世界中のこどもたちが (1) |
| | あめふりくまのこ (2) | いぬのおまわりさん (1) | ニュニョの天気予報 (1) |
| 7月 | 時計のうた (1) | カレーライスの歌 (1) | |
| | たなばたさま (8) | おほしさま (1) | 青い空に絵をかこう (1) |
| | なつ (4) | みずあそび (1) | みんなだいすき (1) |
| | おぼけなんてないさ (2) | しゅりけんにんじゃ (1) | 飛んでったバナナ (1) |
| 8月 | 手のひらを太陽に (2) | ぼくのミックスジュース (1) | |
| | うみ (3) | みんなのちから (1) | おぼけなんてないさ (1) |
| 9月 | おりづる (2) | くじらの時計 (1) | |
| | とんぼのめがね (7) | ぼくらはみらいのたんけんたい (1) | かたたき (1) |
| | むしのこえ (5) | 宇宙船のうた (1) | すずむしのうた (1) |
| | 百歳の歌 (3) | 山の音楽家 (1) | 空にらくがきかきたいな (1) |
| | 夕焼け小焼け (3) | まっかな秋 (1) | しょうじょうじの狸ばやし (1) |
| | つき (2) | 夕日 (1) | |
| 10月 | うさぎ (1) | 運動会の歌 (1) | |
| | 鳥のように (2) | あの青い空のように | 青い空に絵をかこう (1) |
| | やきいもぐーちーばー (2) | 手のひらを太陽に (1) | こおろぎ (1) |
| | 虫の声 (2) | お月さま (1) | ぼくらはみらいのたんけんたい (1) |
| | 夕焼け小焼け (2) | まつぼっくり (1) | ともだちっていいな (1) |
| | どんぐりころころ (2) | もみじ (1) | ともだち賛歌 (1) |
| | わいわい運動会 (1) | 小さい秋みつけた (1) | バスごっこ (1) |
| 11月 | とびきり元気運動会 (1) | まっかな秋 (1) | |
| | まっかな秋 (5) | 地球はみんなのものなんだ (1) | どんぐりころころ (1) |
| | まつぼっくり (3) | もみじ (1) | 夕日 (1) |
| | やきいもぐーちーばー (2) | あいうえおともだち (1) | みんなでラララ (1) |
| 12月 | 冬じたく (1) | ぼくらはみらいのたんけんたい (1) | じごくおさんぼ (1) |
| | あわてんぼうのサンタクロース (7) | もちつき (1) | たきび (1) |
| | お正月 (4) | あしたは晴れる (1) | きらきら星 (1) |
| | うさぎ野原のクリスマス (3) | ぼんばかばーん (1) | はらぺこあおむしのうた (1) |
| | ぼくらはみらいのたんけんたい (2) | どんな色がすき (1) | さんぼ (1) |
| | ともだちになるために (1) | パレード (1) | 風の花束 (1) |
| 1月 | 世界がひとつになるまで (1) | 世界中のこどもたちが (1) | 私と小鳥と鈴と (1) |
| | カレンダーマーチ (5) | ともだちになるために (1) | 歌えあいうえお (1) |
| | お正月 (4) | もちつき (1) | あいうえおともだち (1) |
| | たき火 (4) | たこ (1) | 風も雪もともだちだ (1) |
| | ゆげのあさ (3) | すうじのうた (1) | |
| 2月 | ゆき (3) | 北風小僧のかんたろう (1) | |
| | まめまきのうた (2) | うぐいす (1) | 歌えパンパン (1) |
| | ありがとうの花 (2) | ゆき (1) | 大切なともだち (1) |
| | カレンダーマーチ (2) | ゆきのペンキ屋さん (1) | おにのパンツ (1) |
| 3月 | ホ!ホ!ホ! (1) | 地球はみんなのものなんだ (1) | |
| | 世界中のこどもたちが (1) | 春がきたんだ (1) | |
| | ドキドキドン1年生 (4) | 春が来た (1) | うれしいひなまつり (1) |
| | ありがとう心をこめて (3) | いつまでも友達 (1) | さよならぼくたちの幼稚園 (1) |
| | きらきらがいっぱい (2) | カレンダーマーチ (1) | はじめの一步 (1) |
| | 1年生になったら (2) | 大切なからもの (1) | 夢わかば (1) |
| | 思い出のアルバム (2) | 大切なともだち (1) | |
| | 心のねっこ (2) | ピリブ (1) | |

巻末資料③ 実習中の歌とピアノに関するアンケート

1. 保育所実習の際、実習園で歌っていた歌は何でしたか。(数)

| | | | |
|-----------|-----------------|-----------------|--------------|
| 朝 | おはようのうた (28) | みずでっぽう (3) | チューリップ (1) |
| | あさのうた (11) | かたつむり (3) | うみ (1) |
| | アイスクリーム (5) | アイスクリームの歌 (2) | おつかいありさん (1) |
| | 1.2.3.でおはよう (5) | みずあそび (2) | アイアイ (1) |
| | おばけなんてないさ (5) | おりづる (2) | 母と子の八月八日 (1) |
| | シャボン玉 (5) | めだかの学校 (2) | どこでしょう (1) |
| | たなばたさま (5) | さんぼ (2) | はたらくくるま (1) |
| | なつのうた (4) | ぼくのミックスジュース (2) | ひとりの手 (1) |
| | かえるのうた (4) | 世界中のこどもたちが (2) | 手のひらを太陽に (1) |
| きらきら星 (3) | おべんとう (2) | ことりのうた (1) | |

| | | | |
|---|---------------|---------------|--------------|
| 昼 | お弁当のうた (11) | おばけなんてないさ (2) | かたつむり (1) |
| | ごはんのうた (2) | はたらくくるま (1) | アイスクリーム (1) |
| | おやつのうた (2) | ねこのおいしゃさん (1) | 勇気りんりん (1) |
| | いただきますのうた (2) | 誕生日の歌 (1) | アンパンマンの歌 (1) |

| | | | |
|-----|--------------|-----------------|-------------|
| お帰り | おかえりのうた (39) | たなばたさま (2) | きらきら星 (1) |
| | アイスクリーム (4) | あおいそら (2) | ぼんぼこたぬき (1) |
| | シャボン玉 (4) | なつのうた (1) | とんぼのめがね (1) |
| | さよならのうた (3) | 手をたたきましょう (1) | にじ (1) |
| | おりづる (3) | ぼくのミックスジュース (1) | |

| | | | |
|---------------|---------------|------------------|-----------------|
| その他の 時に | 誕生日の歌 (7) | とんぼのめがね (2) | ぼくのミックスジュース (1) |
| | かえるのうた (7) | 飛んでったバナナ (2) | どんぐりころころ (1) |
| | たなばたさま (7) | おもちゃのチャチャチャ (2) | たまごのうた (1) |
| | おばけなんてないさ (6) | しあわせなら手をたたこう (1) | かんばいのうた (1) |
| | アイスクリーム (2) | みずでっぽう (1) | あめふりくまのこ (1) |
| | にじ (2) | おふろやさん (1) | おかえりのうた (1) |
| | ありがとうのうた (2) | なつのうた (1) | シャボン玉 (1) |
| | はたらくくるま (2) | みずあそび (1) | かたつむり (1) |
| | おりづる (3) | かえるのたいそう (1) | |
| | あの青い空のように (2) | はらぺこあおむし (1) | |
| アイスクリームの歌 (2) | きらきら星 (1) | | |

2. 実習中にあなたが指導したり伴奏したりしたものがあれば記入してください。(数)

| | | |
|--------------|----------------|------------------|
| おかえりのうた (16) | さんぼ (2) | 大きな栗の木の下で (1) |
| おはようのうた (13) | おばけなんてないさ (1) | みずでっぽう (1) |
| アイスクリーム (5) | おべんとうのうた (1) | 母と子の八月八日 (1) |
| あさのうた (4) | ぞうさん (1) | しあわせなら手をたたこう (1) |
| たなばたさま (4) | にじのむこうへ (1) | めだかの学校 (1) |
| シャボン玉 (3) | いないいないばあ (1) | ぼくのミックスジュース (1) |
| きらきら星 (2) | 世界中のこどもたちが (1) | |

Current Status of and Challenges Facing the Development of Practical Musical Abilities in Preschool or Kindergarten and Elementary School Teacher Training Courses

UENO Akiko ⁽¹⁾, KANKO Maya ⁽¹⁾, SABURI Sayoko ⁽¹⁾, TAKAHASHI Motoko ⁽¹⁾,
NAGAI Masuko ⁽¹⁾, and KOYAMA Noriko ⁽²⁾

The objective of this research is to clarify the practical musical abilities that should be developed in preschool or kindergarten and elementary school teacher training courses. As a research method, a questionnaire was administered to clarify the type of songs that are currently being sung in singing activities and the kind of accompaniments being provided in preschools and kindergartens. A survey on practical musical tasks on selection tests, assumed to reflect the musical abilities required of preschool instructors and kindergarten teachers by regional governments and the curricula of practical music courses at other four-year public universities, was also conducted. In addition to studying the practical musical abilities that should be developed in elementary school teacher training courses, a questionnaire to teachers at public elementary schools and a survey of the contents of training course curricula and selection tests were administered. This research will contribute to providing findings to aid in the effective improvement of practical music courses in preschool or kindergarten and elementary school teacher training courses.

Keywords : teacher training course, practical musical abilities, curricula, questionnaire

⁽¹⁾Part-time Lecturer at Faculty of Education, Fukuyama City University

⁽²⁾Department of Childhood Education, Faculty of Education, Fukuyama City University